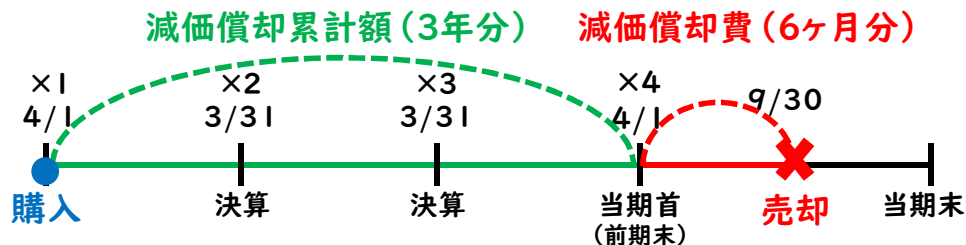


固定資産の売却

- ・会社では、使用している固定資産が不要となった場合、売却することがある。この場合、固定資産の取得原価から売却時点までの減価償却分を差引いた（ ）と売却価格を比べて、高く売れたのか安く売れたのかを計算していく。
- ・売却価格が帳簿価額より高く売れた場合は、その差額を収益である（ ）勘定で処理し、低く売れた場合は、費用である（ ）勘定で処理を行う。
- ・なお、帳簿価額を把握する場合は、タイムテーブルを用いると固定資産を取得してから決算（減価償却の計算）が何回あったかなどの状況が理解しやすい。
- ・《タイムテーブルの使い方》
×1年4月1日に購入し、×4年9月30日に売却した場合。
（会計期間は4月1日から3月31日とする1年間）



※この場合、購入後は3回の決算が行われている。つまり、減価償却累計額も3回（3年分）計上されていることになる。また、当期においても6ヶ月分の使用があるため、当期分の減価償却費を計上する。この3年6ヶ月の減価償却分を取得原価から差引いたのが帳簿価額となる。

仕訳の練習問題

- ×5年4月1日に不要となった備品（購入日：×1年4月1日、取得原価：300,000円、残存価額：ゼロ、耐用年数10年、減価償却方法：定額法）を200,000円で売却し、代金は現金で受取った。なお、決算日は3月31日であり、間接法により記帳している。
 - ×4年12月31日に不要となった建物（購入日：×1年4月1日、取得原価：600,000円、残存価額：ゼロ、耐用年数30年、減価償却方法：定額法）を500,000円で売却し、代金は後日受取ることにした。なお、決算日は3月31日であり、間接法により記帳している。
- | | | |
|----|-----|-----|
| 1. | () | () |
| | () | () |
| | () | () |
 - | | | |
|----|-----|-----|
| 2. | () | () |
| | () | () |
| | () | () |
| | () | () |